

ベテランならではの経験と技術が融合した現場点検

平成30年度 北首都国道施工体制調査業務

憧れの建築家

丹下健三に魅せられて

高校の授業で紹介された丹下健三の作品集、代々木体育館などの芸術的な姿に感動し、憧れ、大学で建築学を専攻。

卒業後は建築家を目指していたものの、まずは現場を知ることが必要だろうと横浜市内の建設会社に就職した。

新入社員研修でとび工、土工、大工、鉄筋工などを経験し、現場のイロハを習得していった。

当時はそれが糧になるとも思わず、ただただ身体がきつく、何度も「もう辞めよう」と思う日々を過ごしていた。

そうしてひととおり現場での基礎を学んだ後、当時は高層といわれた横浜駅前のビルで施工管理補助として働くことになる。

毎日カメラと黒板を手に1階から15階まで上ったり下りたり。

完成したときは、それまでの苦労を忘れるほどの最高の喜びと嬉しさを感じることができた。

また別の現場では、型枠がパンクして打設したばかりのコンクリート（3㎡）が流れ出し、ひとりで片付けを行ったことも。

そんなつらい思いも少なからず経験している。

 **日本振興(株)** 畠中 博文



プロフィール

畠中 博文（はたなか ひろふみ）
鹿児島県出身
趣味：ゴルフ、カラオケ、麻雀
健康管理などいろいろ





必須・・・「畠中メモ」

現在は建設業法や安衛法など法律を熟知していなければならない施工体制点検を担当。

大切だと思ったこと、現場で疑問に思ったことはすぐに「畠中メモ」に記録する習慣をつけており、既にポケットサイズのメモ帳は数十冊をこえている。

さまざまな現場で問題に直面することがあっても、このメモをひっくり返すことで「大体のことは解決できる」のだそう。

業務で行く数々の現場で作業を見ているときに、自らが新入社員だったころに経験した作業とラップすることも多いのだとか。

そんな時に不安全行動に出くわすと思わず声を出して注意したくなってしまう。

また、現場では安全管理や施工技術などが日々著しく向上しているため、対応できるようにと「勉強を習慣づけ、講習会にも積極的に参加し、CPD単位も積極的に取得する」畠中さんはそんな努力家でもあるのだ。



特技はON・OFFの切替え

平日の勤務終了後はジムでマシンを相手に汗を流し、休日は大好きなゴルフ。
本人は謙遜するが一時はプロを目指していたほどの、かなりの腕前とか。



上司の菅野管理技術者も「天職かと思われる程の業務遂行能力、そして自己研鑽を怠らないところは評価しています。今後も常に向上心をもって取り組んでいただきたいと思います。」と絶大なる信頼を寄せる。

現場が完成したときの達成感を感じてほしいーこれからの若い人たちへ

ベテランの技術者としての経験から、建設業の魅力は「無から有へ、創り上げること」と畠中さんは語る。
建設業だけでなくどんな仕事にもつらいことはあるが「どうせ通らなくてはならない道は早めに判断して通ったほうが良い。何事にも逃げない。超えられない壁はない」という信念を持って、仕事が完成したときのあの気持ちを感じてほしい、とメッセージを送る。